FD 推進助成（甲）事業 〔学部 FD 推進事業〕

Ⅵ. 観光まちづくり学部

令和５年度「ＦＤ推進助成（甲）学部ＦＤ推進事業」申請書

令和 4年 1月 27日提出

申請者氏名（学部長申請）	観光まちづくり学部長　　西村　幸夫	
課　題　名	「観光まちづくり演習」の充実に向けたスキルアップ事業	

事業の概要（計画期間全体）（各400字程度）

○目的:現状認識を踏まえた事業の目的

観光まちづくり学部のカリキュラムでは、2年次前期から3年次前期までの計1.5年間をかけて継続的に課題解決に取り組む必修科目として、「観光まちづくり演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を配置している。本演習では、地域分析のための調査手法の修得から実際の地域調査と地域分析、さらには観光まちづくりの実現に向けた課題解決策の提案までを行う。

令和5年度からは「観光まちづくり演習Ⅰ・Ⅱ」が開講され、令和6年度には「観光まちづくり演習Ⅲ」も開講されることになる。そこで、令和5年度の学部FD推進事業では、「観光まちづくり演習Ⅰ・Ⅱ」の運営体制の充実ならびに「観光まちづくり演習Ⅲ」の開講に向けたスキルアップに向けた事業を実施する。具体的な目的としては、①チームティーチングを円滑化するための担当教員の相互理解促進、②フィールドワーク対象地域や参考事例とする先進地域の理解促進、③演習運営委員会の体制強化の3つを設定する。

○内容：目的を達成するために、どのような事業を実施するのか。

上記の目的を達成するため以下の①～⑥の事業を実施する。
①チームティーチング円滑化を目的とした担当教員の相互理解促進に向けた研究会
②フィールドワーク対象地域や参考事例とする先進地域から外部講師を招いての研修会
③フィールドワーク対象地域や先進地域の視察
④演習の運営体制強化を目的とした他大学から外部講師を招いての研修会
⑤各種研修会後のアンケート調査
⑥①～⑤を踏まえた最終報告書の作成

○計画：どのような計画で、当該事業を実施するのか。

上記の内容について下記の通り進める。
①担当教員の相互理解に向けた研究会：毎月開催
②フィールドワーク対象地域や参考事例とする先進地域から外部講師を招いての研修会：4回開催（5月・7月・10月・1月）
③フィールドワーク対象地域や先進地域の視察：2名（8月）
④演習の運営体制強化を目的とした他大学から外部講師を招いての研修会：2回開催（6月・12月開催）
⑤アンケート調査の実施：②、④の各研修会実施後
⑥最終報告書の作成（令和5年1月）

なお、研究会・研修会の実施にあたっては、新型コロナウィルス感染症の影響を考慮し、オンラインでの参加も可能な環境を整える。

○点検・評価：本事業の実施状況並びに成果をどのように点検・評価するのか。

各種活動の実施状況については、研修会等の実施状況を定期的に教務委員会及び学部教授会にて報告し点検・評価を行う。また、研修会の実施後には必ず参加者を対象とするアンケート調査を実施し効果の測定を行うとともに、その後の研修会に回答から得られた意見を反映させる体制を構築する。フィールドワーク対象地域や先進地域の視察については、実施後に教授会または相互理解に向けた研究会の場にて出張者が報告を行う。事業全体の成果については、中間報告書ならびに最終報告書を適宜作成し、教務委員会及び学部教授会で報告し点検・評価を行う。その際、アンケート調査の結果を活用する。

○改善・期待される効果：今後の当該学部の教授法や授業改善にどのように役立つことが想定されるか。具体的に記述してください。

「観光まちづくり演習Ⅱ・Ⅲ」は複数の専門分野の異なる教員によるチームティーチングを予定しており、担当教員による研究会はチーム内での相互理解を促進し効率的な指導につながると考えられる。また、担当教員全体での専門分野の共有にもつながり、「観光まちづくり演習Ⅰ」から「観光まちづくり演習Ⅱ・Ⅲ」への連続性強化への効果も期待できる。

フィールドワーク対象地域や先進地域についての研修会や視察で得られた情報は、フィールドワークの事前学修や地域分析の指導にそのまま活用できるだけでなく、観光まちづくり演習以外の授業でも事例紹介等で活用することが可能である。

運営体制強化のための研修会については、他大学の取り組みを通して演習運営の体制強化だけでなく、授業内容や教授法の改善にもつながると考えられる。

○汎用性（波及効果）：成果を全学で共有することで、当該学部学科を超えて、本学学士課程教育全体または本学教員の職能改善にどのような効果をもたらすことが想定されるか。

担当教員の相互理解に向けた研究会については、「観光まちづくり演習」におけるチームティーチングを円滑化することを目的としており、全学的な職能改善や授業改善への効果は限定的である。フィールドワーク対象地域や先進地域からの外部講師を招いての研修会やそれらの地域の視察については、地域に関する情報を収集し他学部へ共有をはかることで授業改善に役立てられる可能性がある。他大学からの外部講師を招いての研修会については、大学教育の現場に関する情報収集に繋がり、他学部においても職能改善・授業改善に役立てられる可能性が高い。

○経費の妥当性・必要性：教育研究費支出、人件費支出、設備関係支出のそれぞれについて、申請する事業計画と関連して妥当性と必要性を記述してください。

教育研究支出としては、研修会の様子を記録するためのSDカードやmicroSDカード、データを保存するための外付けハードディスクなどの消耗品費、フィールドワーク対象地域等に関連する専門書の購入費用、研修会に外部講師を招聘するための謝金と旅費、視察のための旅費を計上する。これらは研究会・研修会や視察の実施に必要不可欠である。人件費支出、設備関係支出については、特に予定していない。

事業の実務担当者（教員）	松本　貴文（観光まちづくり学部観光まちづくり学科／准教授）

令和５年度「ＦＤ推進助成（甲）学部ＦＤ推進事業」に係る所要経費内訳明細表

課　題　名	

教育研究経費支出内訳			
小　科　目	積　算　内　訳		
	主　な　使　途	金　額	主　な　内　容
消　耗　品　費（１個又は１組の価格が3万円未満）	ビデオカメラ用SDカード、icレコーダー用microSDカード、外付けハードディスク	34,460 円	ソニー SDカード SF-E256　23,100円、キングストン　Canvas Select Plus SDCS2/128GB、1780円、バッファロー HD-PCFS2.0U3-BBA　9,580
用　品　費（１個又は１組の価格が3万円以上20万円未満）		0 円	
図　書　資　料　費	専門書の購入	90,000 円	フィールドワーク対象地域や先進地域に関連する専門書　3,000円×30冊
印　刷　製　本　費		0 円	
通　信　運　搬　費		0 円	
他　一　般　旅　費	講師旅費 視察旅費	340,000 円	講師旅費（1泊2日）　60,000円×4回
賃　借　料		0 円	
手 数 料（ 報 酬 ）	講師謝金	300,000 円	外部講師への謝金　50,000円×6回
労務委託費（電算）		0 円	
労 務 委 託 費（　）		0 円	
労 務 委 託 費（　）		0 円	
計（A）		764,460 円	
アルバイト関係支出（記入の仕方に注意）			
人　件　費　支　出		0 円	別紙（様式３）に記入のこと
計（B）		0 円	
設備関係支出（１個又は１組の価格が20万円以上のもの）			
教育研究用機器備品		0 円	別紙（様式４）に記入のこと
計（C）		0 円	
所要経費(A+B+C)		**764,460 円**	

以上にない科目等は、教育開発推進機構事務課までご相談ください。
機器備品・用品の購入計画がある場合には、見積書・カタログ等購入計画物品を特定できる資料を添付してください。
大学のルール等により、申請した科目とは異なる科目への振替などが出来る場合があります。

様式⑤

令和５年度「ＦＤ推進助成（甲）学部ＦＤ推進事業」経費執行計画表

課　題　名	「観光まちづくり演習」の充実に向けたスキルアップ事業

教育研究経費支出内訳			
小　科　目	執　行　計　画		
	執　行　時　期	金　額	備　考
消耗品費（１個又は１組の価格が3万円未満）	上期・下期・その他	34,460 円	
用品費（１個又は１組の価格が3万円以上20万円未満）	上期・下期・その他	0 円	
図書資料費	上期・下期・その他	90,000 円	研修会の開催に合わせて購入。
印刷製本費	上期・下期・その他	0 円	
通信運搬費	上期・下期・その他	0 円	
他一般旅費	上期・下期・その他	340,000 円	研修会の講師招聘及び視察の際の旅費。研修会は上期3回、下期3回、視察は上期に実施。
賃借料	上期・下期・その他	0 円	
手数料（報酬）	上期・下期・その他	300,000 円	研修会の講師謝金。上期3回、下期に3回開催。
労務委託費（電算）	上期・下期・その他	0 円	
労務委託費（　）	上期・下期・その他	0 円	
労務委託費（　）	上期・下期・その他	0 円	
（　　）	上期・下期・その他	0 円	
計（A）		764,460 円	
アルバイト関係支出（記入の仕方に注意）			
人件費支出	上期・下期・その他	0 円	
計（B）		0 円	
設備関係支出（１個又は１組の価格が20万円以上のもの）			
教育研究用機器備品	上期・下期・その他	0 円	
計（C）		0 円	
所要経費(A+B+C)		**764,460 円**	

※執行時期が「その他」の場合は、備考欄に具体的な時期を記載してください。

※ご不明な点は、教育開発推進機構事務課までご相談ください。

令和５年度「ＦＤ推進助成（甲）学部ＦＤ推進事業」中間報告書

令和 5 年 9 月 12 日提出

事業申請者 （学部長申請）	観光まちづくり学部長　西村　幸夫	
課題名	「観光まちづくり演習」の充実に向けたスキルアップ事業	

■事業の進展状況

令和５年４月から報告時点（９月末）までの当該申請事業の進展状況について、申請書に記載した「目的」「内容」「計画」「役割分担」を考慮しつつ、いつ、どこで、だれが、何を実施したかを考慮して、その概要を簡潔に説明してください（枠内書式自由）。

◎ なお、学部教員全員を対象として検討会等を実施した場合には、その日時と参加人数を明記してください。

本事業は、令和 5 年度から開講される「観光まちづくり演習I・II」の運営体制の充実ならびに、令和 6 年度から開講される「観光まちづくり演習III」の開講準備に向けた教員のスキルアップを目的としている。具体的な内容としては、①チームティーチング円滑化を目的とした担当教員の相互理解促進に向けた研究会、②フィールドワーク対象地域や参考事例とする先進地域から外部講師を招いての研修会、③フィールドワーク対象地域や先進地域の視察、④演習の運営体制強化を目的とした他大学から外部講師を招いての研修会を実施することとしており、各研修会の終了後にはアンケート調査を行い、これらを踏まえて最終的な報告書を作成予定である。計画では、①を毎月開催、②を 5 月・7 月・10 月・1 月の 4 回開催、③を 8 月開催、④を 6 月・12 月開催と予定していた。

以上の目的、内容、計画に対し上期（4 月～9 月）の進捗状況は下記の通りである。①については 5 月 17 日（30 名）、5 月 31 日（28 名）、6 月 14 日（29 名）、7 月 12 日（30 名）に開催した（カッコ内は参加人数）。②については現時点で実施できていない。③については 9 月 30 日～10 月 1 日に栃木県日光市の視察を実施する予定であり準備を進めている。④については 7 月 26 日に奈良女子大学寺岡伸悟先生をお招きし、フィールドワークを含む実習型授業の進め方についての研修会を開催した。参加者は 24 名であった。②については、計画より実施が大幅に遅れているものの、①、③、④については概ね当初の予定通り実施できている。

■事業に関する変更点

現在までの進展状況から、申請書に記した「計画」「役割分担」「点検・評価」「改善（期待される効果）」に変更が生じる見込みであれば、その理由とどのような変更を見込まれるかについて簡潔に記述してください（枠内書式自由）。

上記の事業の進捗状況で述べた通り、概ね当初の計画通り研修会等を実施できている（あるいは実施予定である）ものの、②フィールドワーク対象地域や参考事例とする先進地域から外部講師を招いての研修会については講師の選定やスケジュール調整に時間を要しており、実施の遅れが生じている。ただし、本事業の目的に照らして重要な取り組みであるため、予定通り 4 回の研修会を下期に開催する予定である。

■経費の執行状況　※いずれかに〇を付けて「その理由」を記述してください。

［〇］当初計画どおりの見込み

［　］減額補正を申請する見込み

＊その理由（減額補正を申請する場合は、必ず記入してください。）

一部の取り組みついては実施に遅れが生じているものの、当初予定していた内容を実施する予定であり、減額申請の見込みはない。

事業実務担当者名（教員）	松本　貴文（観光まちづくり学部観光まちづくり学科／職位准教授）

令和　6年　2月　27日

國學院大學 学長 殿

学部長：　西村　幸夫　　（印省略）

令和5年度「FD推進助成（甲）学部FD推進事業」事業報告書

標記のことに関し、以下のとおり報告いたします。

学 部 名	観光まちづくり学部
事 業 名	「観光まちづくり演習」の充実に向けたスキルアップ事業
実務担当者名	松本　貴文

事　業　の　概　要

以下、本年度実施した推進事業の概要について、申請時に提出した「学部FD推進事業」事業申請書の「目的」「内容」「計画」を参照しつつ、具体的に記入してください。

観光まちづくり学部のカリキュラムでは、2年次前期から3年次前期までの計1.5年間をかけて継続的に地域の課題分析・解決に取り組む必修科目として、「観光まちづくり演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を配置している。令和5年度は「観光まちづくり演習Ⅰ・Ⅱ」が開講され、令和6年度には「観光まちづくり演習Ⅲ」も開講される。そこで、本年度の学部FD推進事業では、「観光まちづくり演習Ⅰ・Ⅱ」の運営体制の充実ならびに「観光まちづくり演習Ⅲ」の開講に向けたスキルアップ事業を実施した。本事業では具体的な目的として、(1) チームティーチングを円滑化するための担当教員間の相互理解促進、(2) フィールドワーク対象地域や参考事例とする先進地域の理解促進、(3) 演習運営委員会の体制強化の3つを設定した。

上記の目的を達成するため、①～⑥の活動を下記のスケジュールで実施することとした。

① 担当教員の相互理解に向けた研究会：毎月開催
② フィールドワーク対象地域や参考事例とする先進地域から外部講師を招いての研修会：4回開催（5月・7月・10月・1月）
③ フィールドワーク対象地域や先進地域の視察：2名（8月）
④ 演習の運営体制強化を目的とした他大学から外部講師を招いての研修会：2回開催（6月・12月開催）
⑤ アンケート調査の実施：②、④の各研修会実施後
⑥ 最終報告書の作成（1月）

なお、研究会・研修会の実施にあたっては、新型コロナウィルス感染症の影響を考慮し、オンラインでの参加環境を整えることにした。

事　業　の　結　果

【目　的】年初計画で設定した目的は達成できましたか？（または「今後達成できるか？」）（いずれかにチェック）

☐十分達成できた（できる）　☑若干の計画修正の上達成可　☐大幅な修正の上達成可　☐達成できない

【内　容】年初計画で設定した事業内容は適切でしたか？（いずれかにチェック）

☐適切であった　☑概ね適切であった　☐あまり適切でなかった　☐適切でなかった

【点検・評価・共有】点検・評価を行い、その結果を学部教員全員で十分に共有・検討しましたか？

☐十分な点検・評価・共有ができた　☑一定の点検・評価・共有ができた

☐点検・評価・共有のどれかが不十分であった　☐点検・評価・共有のほとんどが不十分であった

以下、本年度実施した推進事業の結果について、申請時に提出した「学部 FD 推進事業」事業申請書の「目的」「内容」「計画」「点検・評価」及び上記の自己評価（チェック項目。特に【点検・評価・共有】については必ず言及）に照らして記入してください。

前述の①～⑥の活動の実施状況は下記の通りであった。

① 担当教員の相互理解に向けた研究会：6 回開催…5 月 17 日（30 人）、5 月 31 日（28 人）、6 月 14 日（29 人）、7 月 12 日（30 人）、1 月 17 日（30 人）、2 月 21 日（30 人）
② 地域から外部講師を招いての研修会：1 回開催…1 月 24 日（23 人）
③ 先進地域の視察：9 月 30 日～10 月 1 日に日光市エクスカーションを実施（26 人）
④ 他大学から講師を招いての研修会：1 回開催…7 月 26 日（25 人）
⑤ アンケート調査の実施：2 回実施…7 月 26 日～8 月 8 日（11 人）、1 月 24 日～2 月 13 日（18 人）
⑥ 最終報告書の作成：2 月に実施

＊括弧内は参加人数。ただし、アンケート調査は回答者数。

以上のように、①・②・④については当初の予定よりも実施回数が少なくなった。しかし、③については当初予定していた少人数による視察から、学部教職員全体に参加を募る形式でのエクスカーションに充実させた。他の活動が計画通り実施できなかったのも、エクスカーションの準備に時間を要したためである。エクスカーションでは、日光市等の協力を得て市内各所を視察したほか、「観光まちづくり演習」の運営体制をはじめとする学部運営に関するワークショップも開催した。その結果、教員間の相互理解、地域理解、演習運営体制の強化という本事業の 3 つの目的の達成に対し大きな成果が得られた。これらのことを踏まえ、「若干の計画修正の上達成可」と評価した。

事業内容については、上記の通り一部変更を行ったものの、目的と明確に関連付けられており「概ね適切であった」と評価した。なお、研修会後に実施したアンケート調査では、いずれの研修会についてもすべての回答者が研修会のテーマは「適切だった」と回答した。また、研修会の内容が職能改善・授業改善に参考になったかどうかについても、地域から外部講師を招いての研修会では「参考になった」が 82%、「どちらかといえば参考になった」が 18%、他大学から講師を招いての研修会では「参考になった」が 89%、「どちらかといえば参考になった」が 11%となっており、全ての回答者が肯定的に評価している。

事業の点検・評価に関して、研修会とエクスカーションの進捗状況については学部教務委員会及び教授会で報告を行った。また、研修会については実施後にアンケート調査を実施した。成果の共有に関しては、相互理解に向けた研究会の資料を学部教員に共有した。また、日光市エクスカーションの成果については、教授会にて詳細な報告がなされた。しかし、研修会については、当日参加できなかった教員に対し十分な情報共有を図ることができなかった。以上の理由から、「一定の点検・評価・共有ができた」と評価した。

今　後　の　展　望

【改善・期待される効果】本事業で得た知見は、今後の当該学部の教授法や授業改善に効果的であるか？

☑とても効果的である　□効果的である　□あまり効果的でない　□効果的でない（いずれかにチェック）

効果的である／ないと判断した理由を、これまでの学部の教授法や授業改善との関連から、具体的に述べてください。

前述の通り、研修会については実施後のアンケートですべての回答者が、職能改善・授業改善に「参考になった」または「どちらかといえば参考になった」と回答している。また、相互理解に向けた研究会や日光市エクスカーションについても、多くの参加者から好意的な評価を得ることができた。したがって、「とても効果的である」と評価した。とりわけ、急遽予定を変更して実施した日光市エクスカーションは、本事業の目的であった教員間の相互理解の促進、地域理解、演習運営体制の強化の全てに対して非常に効果的であった。

なお、本事業では、日光市エクスカーションをはじめ、研修会の外部講師を高山市の飛騨高山大学連携センター及び香取市の NPO 法人佐原アカデミアから招聘するなど、実施の過程で本学が連携協定を結んでいる自治体や団体から協力を得た。「観光まちづくり演習」に限らず、観光まちづくり学部のカリキュラムでは、受け入れ地域との連携が欠かせない科目も多い。したがって、日光市や高山市、佐原アカデミアの取り組みについて理解を深め関係強化につながった点も、本事業の重要な成果の１つといえる。

【汎用性・波及効果】本事業で得た知見は、学部学科を超えた本学学士課程教育全体または教員の職能改善に効果的であるか？

□とても効果的である　□効果的である　☑あまり効果的でない　□効果的でない（いずれかにチェック）

効果的である(ない)と判断した理由を、これまでの当該学部の教授法や授業改善との関連から、具体的に述べてください。

教員間の相互理解の促進は、いずれの学部学科においても授業改善、職能改善一定の効果を持つと考えられる。また、研修会やエクスカーションを通して構築された地域や団体との関係についても、全学部学科における授業改善に役立てることが可能かもしれない。

とはいえ、「観光まちづくり演習」は複数の教員がチームティーチングを行うなど、独自性の強い科目である。本事業は「観光まちづくり演習」の充実を目的としており、実際のフィールドワークと近い形でエクスカーションを実施する等、その特性に配慮した内容であった。したがって、本事業で得た知見を、学部学科を超えた学士課程教育全体の授業改善・職能改善に応用する場合、その範囲は限られたものとなると予想される。したがって、「あまり効果的ではない」と評価した。

【経費の執行】経費の執行は、執行計画表に基き執行時期・費目別執行率とも適切でしたか？

本年度の経費の執行状況について、執行計画表に基づき、中間報告の前後に分けて記入してください。

上期については、①消耗品費、②研修会に関連する図書資料費、③研修会講師の旅費、④研修会講師の謝金（手数料）の執行を予定していた。この内、研修会がオンラインのみでの開催となったため、①消耗品費（研修会の様子を記録するための SD カードを購入予定）及び③研修会講師の旅費については支出する必要がなくなった。また、②図書資料費については、実務担当者の整理作業が遅れ執行できなかった。したがって、④研修会講師の謝金（手数料）のみの執行となった。なお、④ついても研修会を予定回数実施できなかったため、執行できたのは 1 回分に留まった。

下期については、②研修会に関連する図書資料費、③研修会講師及び視察の旅費、④研修会講師の謝金（手数料）について執行を予定していた。②研修会に関連する図書資料費については、上期に執行できなかった第 1 回研修会の関連図書と、下期に実施した第 2 回の研修会に関連する図書を購入した。③研修会講師及び視察の旅費については、第 2 回研修会も第 1 回に引き続きオンラインのみでの開催となったため講師の旅費は不要となった。視察旅費として、エクスカーションの際の大型バス借り上げ代を支出した。また、旅費の一部を費目変更し、エクスカーションの際にワークショップ等を行うための会議室賃借料に充てた。④研修会講師の謝金については 2 名分を執行した。また、本年度の事業に関する情報を記録するため、上期に執行できなかった①消耗品費から外付け HDD を購入した。

研修会を予定していた回数開催できなかったため、全体の執行率は 55%と低くなってしまった。研修会の開催については、講師との日程調整など時間を要することから年度内に実施できる回数に限界があることを痛感している。今後の事業計画及び経費の執行計画作成の際には、この反省を生かしていく必要がある。

【成果報告会】成果報告会の内容（説明事項、共有事項、問題提起等）について現時点での概要をお書きください。

本事業報告書の項目に即しつつ、「事業の結果」を中心に報告を行う予定である。とりわけ、2 回開催した研修会及び日光市エクスカーションの成果について、重点的に説明を行う。具体的には、以下のような項目を予定している。

① 事業の概要（「観光まちづくり演習」の概要、本事業の目的・内容・計画）
② 本事業の成果（研修会とエクスカーションの成果、得られた知見の整理）
③ 今後の展望（「観光まちづくり演習」における知見の応用、学部学科を超えた波及効果）
④ 経費の執行
⑤ まとめ

観光まちづくり学部　令和5年度学部FD推進事業

「観光まちづくり演習」の充実に向けたスキルアップ事業

2024年3月11日（月）

実務担当者：松本貴文

1

事業の概要

□「観光まちづくり演習」とは

- 1年後期から1.5年間をかけて「観光まちづくり演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を開講（必修科目）
  ・・・　Ⅰで調査手法を学び、Ⅱで地域分析、Ⅲで構想・提案を行う
- 学生は5つのスタジオに所属。6名程度のグループを編成しグループワークが中心
- 学部専任教員のほとんどが本演習を担当。Ⅱ・Ⅲについては各スタジオ5～6名程度の教員がチームティーチングを行う

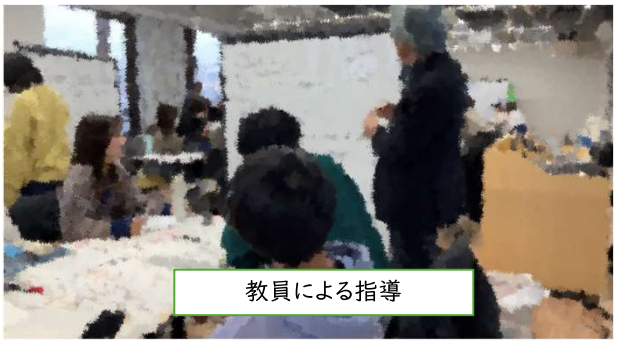
⇒　学部教育の中核を担う特色のある科目

【参考】観光まちづくり学部の演習科目

【導入期】	【基礎期】	【発展期】
・導入ゼミナール	・基礎ゼミナールA・B（＊） ・観光まちづくり演習Ⅰ	・観光まちづくり演習Ⅱ・Ⅲ ・専門ゼミナール ・卒業研究

＊基礎ゼミナールA・Bは選択必修科目（他は必修科目）

2



3

事業の概要

□事業の目的

（1）チームティーチングを円滑化するための担当**教員間の相互理解促進**

（2）フィールドワーク対象地域や参考事例とする先進**地域の理解促進**

（3）**演習運営委員会の体制強化**

□主な事業内容

① 担当教員の相互理解に向けた研究会

② フィールドワーク対象地域や先進地域から外部講師を招いての研修会

③ フィールドワーク対象地域や先進地域の視察

④ 演習の運営体制強化を目的とした他大学から外部講師を招いての研修会

4

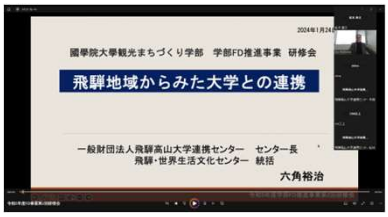
事業の成果①
担当教員の相互理解に向けた研究会

- 概要
  - 学部教授会前の時間を使って6回開催（2023年5月17日、5月31日、6月14日、7月12日、2024年1月17日、2月21日）
  - これまでの研究や今後取り組みたいテーマなどを紹介
- 成果
  - 研究についての相互理解促進
  - 教員間のコミュニケーション促進

⇒ **「観光まちづくり演習」の指導にも一定の効果**

5

事業の成果②
先進地域から外部講師を招いての研修会



- 概要
  - 開催日時：2024年1月24日（水）16:00～18:00
  - 開催形式：オンライン開催
  - 講師：飛騨高山大学連携センター　六角裕治センター長
    佐原アカデミア　椎名喜予　事務局長
  - 内容：地域の側からみた大学との連携
  - 参加者：23人

6

事業の成果②
先進地域から外部講師を招いての研修会

□講演の内容

- 大学連携で取り組まれている共同研究や授業に関するご紹介（フィールドワークの支援のほか、地元企業や中学校・高校との共同事業）
- 大学との連携を通して解決したい地域課題

  ⇒ **地域としては長期スパンでの関係継続を期待**

□質疑応答・意見交換

- 大学との連携を行う際、地域側が必要とするサポートとは？

  ⇒ **受け入れ側の人材育成**
- 長期スパンでの関係継続に関する課題（学生の入れ替わりに対する配慮）

  ⇒ **地域の側で多様な組織と連携 ＋ 大学生による活動そのものの価値**

7

事業の成果③
先進地域の視察（エクスカーションに変更）

□概要

- 令和5年2月1日に日光市長来学：日光市の取り組みや課題についてご説明
- 先進地域の視察として**日光市エクスカーション**を企画（市からもご協力を得る）

  … 少人数の視察ではなく全専任教員から参加を募ることに

  ＊教員の多様な視点とチームティーチングを行うことを考慮
- 2023年9月30日～10月1日に実施
- 26人が参加（日帰り・途中参加を含む）
- **各訪問先で専門家による案内**
- 9月22日に事前レクチャー、12月20日に日光市との意見交換会を実施

8

まちづくり政策レクチャー
二社一寺
金谷ホテル
ワークショップ

9

戦場ヶ原
日光自然博物館
華厳の滝
英国大使館別荘記念公園

10

日光市との意見交換

11

事業の成果③
先進地域の視察（エクスカーションに変更）

□成果

- 専門家による案内を通した**地域の理解促進**
- ワークショップや意見交換を通した**教員相互の理解促進**
- 地域（日光市）との意見交換を通した**地域資源・地域課題の発見**

例えば・・・
- 奥日光の自然の魅力
- 杉並木街道の活用
- リピーター確保に向けての課題
- 門前町商店街のまちづくりについて

12

事業の成果④
他大学から外部講師を招いての研修会

□ 概要

- 開催日時：2023年7月26日（水）16:00～18:00
- 開催形式：オンライン開催
- 講師：奈良女子大学　寺岡伸悟教授
- 内容：奈良女子大学における実習型授業の取り組みについてのご紹介等
- 参加者：25人

13

事業の成果④
他大学から外部講師を招いての研修会

□講演の内容

- 地域介入型授業である「コミュニティ・リサーチ」、「コミュニティ・アクション」を中心に、具体的な授業内容、運営体制についてのご紹介
- ポイント：授業を積み重ねるに従い**大学が働きかける相手や目的が変化**

⇒ 観光まちづくり演習でも検討が必要

□質疑応答・意見交換

- 地域連携や共同研究が地域・大学に与えた影響についてのご紹介

Ex. **奈良型エクステンション制度**

［授業のフィールドである］下市町など3町村において役場と共同で特任助教を採用

廃校などの施設を研究・教育・事業づくり・地域づくりの場に

14

事業の成果まとめ

□ 担当教員間の相互理解促進
- 研究に関する相互理解促進
- 地域を見る視点・方法の共有・理解促進
- 教員間のコミュニケーションを活性化

□ 先進地域の理解促進
- 日光市、高山市、香取市佐原の理解促進
- 意見交換を通した地域課題・ニーズの発見

□ 演習運営委員会の体制強化
- 介入型実習授業における構図（働きかける相手・目的）の変化に対する理解
- 他大学における特色ある取り組みについての情報共有
- 地域側の運営体制強化支援という課題の発見（地域支援組織への支援）

→ **事業の目的は概ね達成**
＋
今後の課題明確化

15

今後の展望

□短期的課題：「観光まちづくり演習Ⅲ」の開講
- 「構想・提案」を目指す
- 学生の「主体性の発揮」がより一層求められる

⇒ **課題解決型学習における支援・指導のあり方について検討必要**

□中・長期的課題：地域との長期的関係構築に向けた仕組み作り
- 関係が長期化していく過程での授業の構図の検討
- 地域との有機的連携を可能にする体制・仕組み作りの検討

16

今後の展望

□本年度事業の評価できる点

- エクスカーションの有効性（専門家による事前レクチャー＋案内）
  ⇒ 「観光まちづくり演習」をはじめ学部教育の特性と親和的
- 連携協定を結んでいる地域との関係強化

□本年度事業の反省すべき点

- 計画（スケジュール）が過密
  ⇒ 予算の執行率低下：より集中的に事業に取り組むことが必要

17